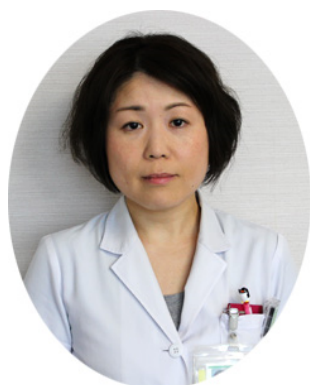


2019年4月16日・24日放送



女性と泌尿器科の病気

JA とりで総合医療センター
泌尿器科 医師 川村尚子

司会者：泌尿器科とはどんな病気を扱っている科ですか？

川 村：泌尿器科で治療を行う病気は、本当にたくさんあります。腎臓、尿管、膀胱、前立腺、精巣、陰茎（ペニス）などが治療の対象となる臓器で、それらの臓器に発生した癌や感染症、結石、臓器の機能不全など、臓器のトラブルすべてを扱います。

具体的な病気でいうと、前立腺肥大症、尿管結石、過活動膀胱、腎臓がんなどが例に挙げられます。少し複雑ですが、後腹膜という背中の中のほう、腎臓のまわりにできた腫瘍や感染症なども泌尿器科の担当です。また、副腎というホルモン臓器の異常も泌尿器科の病気です。ときには尿膜管という、へその緒の名残に発生する病気も扱うことがあります。

大人の包茎をなおすのも泌尿器科医の役目です。

司会者：たくさんの病気を扱うんですね。

泌尿器科は男性というイメージがありますが、女性にも泌尿器科の病気がありますか？

川 村：前立腺肥大、前立腺癌、精巣腫瘍などは男性に特有な病気なので、男性の患者さまが多いです。しかし、腎臓や膀胱の病気は男性と同じように、女性にもおこります。

たとえば、女性は尿道という尿の通り道が短いため、男性より膀胱炎になりやすく、膀胱炎から腎盂腎炎になってしまうこともあります。

さらに、女性に特有な病気として、骨盤臓器脱があります。

司会者：骨盤臓器脱とはどんな病気ですか？

川 村：女性が妊娠・出産を経験したり、年齢を重ねることで、骨盤を支える筋肉がゆるみます。筋肉がゆるむと、膀胱、子宮、腸管などの臓器が、膣を経由して落ちてくる場合があります。どんな臓器が落ちてきても、まとめて骨盤臓器脱と呼んでいます。骨盤臓器脱は泌尿器科や婦人科で扱う病気です。症状としては、

股のあいだに何かが出てくる、何か落ちてくる感じがします。股のあいだに出てきた臓器が、自分の目で見えることもあります。普段は臓器が出てこないけれど、力を入れたら出てきた、お風呂に入ったら丸いものがでてきた、とおっしゃる患者さまも多いです。

司会者：骨盤の臓器が落ちてくるとどんな問題があるのでしょうか。

川 村：骨盤臓器脱の程度が軽ければ、何も問題はありません。

しかし臓器脱がひどくなると、違和感が強くなります。膣から出た臓器が戻らなくなってしまうこともあります。骨盤臓器脱は、膀胱炎や腎盂腎炎といった、尿の感染症の原因になります。尿が出にくくなる、尿が漏れるなどの症状がでることもあります。

司会者：臓器脱を治す方法はありますか？

川 村：臓器脱を治すにはいくつかの方法があります。

膣に器具を入れて臓器を持ち上げる方法があります。この方法は手術をしなくてすみますが、器具の定期的な交換が必要になります。臓器脱がひどくなると、せっかく入れた器具が外れてしまうこともあります。

従来は、ゆるんだ膣の壁を縫って縮める手術、膣の壁を切って、落ちてきた子宮を取り出す手術などが行われていました。

残念ながら手術をしても、ときには臓器脱が再発してしなう患者さまもいらっしゃいます。そこで再発率を少しでも少なくするため、最近ではメッシュを使用した手術が開発され、ひろく行われています。

司会者：メッシュとはどんなもので、手術はどのように行いますか？

川 村：メッシュは細かい網のようなもので、ポリプロピレンという物質でできています。落ちてきた臓器を持ち上げ、補強するために使います。

代表的な手術の名前は、腹腔鏡下仙骨膣固定術です。お腹に4-5か所の、5mm程度の小さい穴をあけ、その穴から内視鏡（カメラ）や器具を入れて手術を行います。メッシュを使って骨盤の底（膣）を持ち上げ、骨盤の仙骨という骨に固定します。この手術では傷がちいさくてすみます。また、膣の壁を切ったり縫合したりする必要がなく、手術後膣が狭くなるなどの心配がありません。

この手術のほかに、膣の壁を切って、そこからメッシュを挿入して補強する方法もあり、これをTVM（テープイエム）手術と呼んでいます。

どんな手術がその患者さまにとって適切であるか、患者さまのご年齢や現在の病気、過去の病気の既往などを考え、患者さまのご希望に沿い治療方針を決定します。

司会者：相談しながら、自分にあった治療法を選択できるんですね。

骨盤臓器脱のほかにも、女性に特有な泌尿器科の病気がありますか？

川 村：あります。骨盤を支える筋肉がゆるみ、特に尿道を支える筋肉が弱くなると、腹圧性尿失禁がおこります。腹圧性尿失禁とは、咳やくしゃみなどで尿が漏れる症状です。お腹に力をいれたら尿がちょっと漏れてしまった、という経験をお持ちの女性は多いのではないのでしょうか。

司会者：聞いたことがありますね。

腹圧性尿失禁は治せますか？

川 村：骨盤底筋体操という筋肉を締める運動をして、改善を目指します。お尻の穴をぎゅーっと締めて、肛門と尿道周囲の筋肉を鍛えます。体操の方法は病院で指導していますが、インターネットなどでも簡単に調べられます。腹圧性尿失禁は体重が増えると悪化するので、体重を増やさないように気を付けることも大切です。

薬物療法で改善することもあります。薬や体操で尿漏れが治らない場合、手術を行うこともあります。

司会者：尿失禁の手術はどのようなものですか？

川 村：先ほどもお話ししましたが、尿失禁手術にもメッシュを使います。細くテープ状にしたメッシュを尿道の周りに挿入し、緩んだ尿道を補強します。

この手術はTOT（テーオーティー）手術またはTVT（テーブイティー）手術と呼ばれています。膣の壁と太ももの内側に数ミリの小さい切開をおくだけで手術が可能です。

司会者：いろいろな手術がありますね。

股の間から臓器が出てきた、尿が漏れる、という症状は、なかなかお医者さんに言えないこともあります。

川 村：女性のデリケートな部分の病気なので、病院受診をためられる患者さまもいらっしゃると思います。骨盤臓器脱や尿失禁をかかえている女性の割合は非常に多く、まったく恥ずかしい病気ではありません。少しでも多くの女性患者さまに受診していただけるよう、当病院では、女性泌尿器科外来という専門外来を開いています。

女性医師と女性看護師で診察、対応に当たります。

司会者：女性泌尿器科外来で、骨盤臓器脱と尿失禁の診察が受けられるのですね。

川 村：骨盤臓器脱や尿失禁といった病気ではありません。膀胱炎になりやすい、トイレが近い、尿に血が混じった、尿管結石ができたなど、泌尿器科の病気すべての診察が可能です。

女性泌尿器科外来で、気軽になんでもご相談していただけるとうれしく思います。